



今回の救急豆知識は20号の節目と、新入学を迎える時期ですので子供の事故と年齢の違いについて考えて見ましょう。

原因

子供の事故は発育していくに従い違っていく傾向があります。乳児期は、吐乳による誤嚥（ごえん）、寝ているときに起こる布団などでの窒息事故。幼児期は、お風呂の湯船への転落、洗濯機への転落、川や池への転落事故による溺水事故。転倒したときによるケガ、異物を飲み込んでしまった誤飲。春になり小学校入学を向かえた学童期は徐々に行動範囲が広がって行ったときの自動車事故。

子供の事故は大人が考えていないような原因、思いがけない場所等で起こるものです。親が目をはなしたスキに起こることも頭に入れておきましょう。



対策



そこで、大人がしておく大事なことは何なのか、事故が起こらないようにするにはどうすることが大切なのか、考えて見ましょう。

まず、親が子供の周りにおける危険と思う物、たとえば、タバコ、ハサミ、電池、カッターナイフ、薬などを手の届かない場所に置く、トイレトペーパーの芯の穴よりも小さいものは乳幼児の口に入り誤飲の原因と言われています。それと、外出は大人と一緒にし、入浴も一人ではさせずに必ず大人と入る。こんなちょっとした気配りで子供の事故は予防できます。

もしも事故が起きて大人は慌てずに事故の原因を取り除き、次に必要な応急手当をして、119番通報し救急車を呼びましょう。窒息したときは背中を叩き、セキをさせ、やけどをしたときは冷水等で冷やす、ケガで出血があるときは止血し、捻挫や骨折のときは傘などで固定する、呼吸がないときは、人工呼吸と心臓マッサージをするなどです。

子供たちの事故を未然に防ぐ事はもちろん、起きてしまった事故に対して適切に対処するためにも私たち富士五湖消防本部での普通救命講習会の受講もそのひとつです。



起こって
しまったら